



新春を迎えて

南富良野町長 池部 彰

平成二十六年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、2度目となる東京オリンピックの開催決定、富士山の世界文化遺産登録やNHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」が話題となるなど、明るい話題の一方、東日本大震災から3年近く経過する中で、復興はなかなか進まず、原発の汚染水問題などもまだまだ不透明な状況であり、被災地の早い復興を祈るばかりであります。

本町においては10月16日に台風と寒気の影響による季節外れの大雪で、倒木が大量に発生し、狩勝峠をはじめ周辺の道路が寸断され、一時的に幾寅、落合、北落合地域が孤立状態となる災害が発生しました。

また、同時に町内全域で長時間の停電が発生し住民生活が脅かされる事態となりました。

幸いにも住民皆様の冷静な判断と行動によりまして、一件の事故もなく復旧されたところであります。

今回のことを教訓にいたしまして、災害に強い町づくりをめざし、現在、防災計画の見直しや避難所の設備充実等について、検討を進めているところであります。

国内においては、TPP関税撤廃問

題、隣国との領土問題、消費税増税の問題など、どの課題も避けては通れない難題であります。国民の暮らしに

関しては、本年4月からの消費税増税に伴う、生活関連費の増高、燃料価格の高止まり、電気料金の値上げ、医療費の自己負担見直しなど、様々な負担増が想定される中で、政府には、強い経済を取り戻す過程で生ずる痛みについて、一方的に国民や地方自治体に押し付けることの無いよう、政策課題の解決を求めて参りたいと存じます。

町政では、引き続き、少子高齢化の進行や地方分権の進展など、社会情勢の変化を踏まえて、住民皆様の求めに応じた、きめ細やかな行政サービスを推進し、本町まちづくりの持続性を更に高めていく事を念頭に置き、豊かで住みよい活力み満ちた本町地域社会の実現を目指してまいります。

過疎化や少子化の影響による児童数の減少による小学校の適正配置と耐震化につきましては、住民皆さまのご理解をいただく中で、北落合・落合・幾寅小学校を閉校し、本年4月には新しい南富良野小学校を開校させていただきましたことになりました。

また、金山・下金山地区の小学校についても、平成28年4月に新設校を開校するよう取り進めますので、これにより、町内小・中学校の配置の見直しと耐震化が完了することになります。福祉施設の整備充実については、金

平成二十六年 元旦

山・下金山地区の高齢者が安心して、健康で明るい生活が送れるよう、生活支援ハウスに、老朽化が著しい老人憩いの家及び保育所を兼ね備えた複合施設を平成26年度建設、平成27年度開設に向け取り組んでいるところでありまして、このことによりまして、金山地区に「ふくしあ」と合わせた老人福祉の拠点が新たに誕生する予定となっております。

これからにおいても、まちの将来像の実現のため、迎える社会や経済情勢の変化に対応しながら、住民皆様の幸せを感じる「住み続けられる、住み続けたいと思える」まちづくりのため、農林業・商工鉱業・観光・福祉などの地域産業の振興をはじめ、保健・医療・福祉の充実、安全・安心・快適な生活基盤・生活環境づくり、次代を担う子どもたちの育成と支援、住民と行政が協働するまちづくりを目指してまいります。

町民の皆様には、希望に満ちた平成二十六年の新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より議会運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

そうした中、本町の基幹産業を見てもみますと、農業については、昨年は融雪が大幅に遅れ、降雨の影響もあり播種作業は10日以上も遅れました。その後5月下旬からは高温であったことから生育は幾分回復しましたが、7月、8月にかけての干ばつにより一部の作物で大きな影響を受けました。全体的にはこの一部を除き平年並みの収穫となったようです。また、TPPの交渉状況から目が離せない一年でもありました。農業関係者だけの問題でなく、我々国民が厳しい目で将来を見極めなければなりません。

林業については、依然として厳しい状況であり、林業労働者の減少や高齢化による林業担い手対策については深刻化しています。地球温暖化問題により森林の多面的機能が見直されてきている時にもあり、新たな施策の推進が必要となる時期と考えられます。

商工業については、国や地方の財政状況の逼迫などにより、建設業者の方々は特に厳しい状況にあると思えます。また、商店を経営している方々も、経済不況による購買力の低下、消費者の町外流出など大変厳しい状況が続いています。商工会ではこの対策として、町内商店の販売促進を図るためポイントカード事業を継続して実施しているところであり、昨年暮れに行つた

山・下金山地区の高齢者が安心して、健康で明るい生活が送れるよう、生活支援ハウスに、老朽化が著しい老人憩いの家及び保育所を兼ね備えた複合施設を平成26年度建設、平成27年度開設に向け取り組んでいるところでありまして、このことによりまして、金山地区に「ふくしあ」と合わせた老人福祉の拠点が新たに誕生する予定となっております。

これからにおいても、まちの将来像の実現のため、迎える社会や経済情勢の変化に対応しながら、住民皆様の幸せを感じる「住み続けられる、住み続けたいと思える」まちづくりのため、農林業・商工鉱業・観光・福祉などの地域産業の振興をはじめ、保健・医療・福祉の充実、安全・安心・快適な生活基盤・生活環境づくり、次代を担う子どもたちの育成と支援、住民と行政が協働するまちづくりを目指してまいります。

本年は、北落合、落合、幾寅の三つの小学校が統合され、新たな小学校が開校となります。学校のあり方等の検討を重ねた地域のご理解と何より子ども達のためを思慮した結果であることに心を寄せ、子ども達の新しい学校生活にあたたかく見守り、応援していかなくてはならないと感じております。

平成二十六年 元旦

年頭にあたって

南富良野町議会議長 鹿野 重博

さて、昨年を振り返りますと、アベノミクスによる経済回復は三本の矢によつて上向き傾向となつておりますが、地方にあつては実感するには時間を要するようです。福島をはじめ震災復興も待たれます。多くの飲食業者における表示と異なる食材によるメニュー偽装や、JR北海道では相次ぐ車両トラブルにレール点検等のデータ改ざんと私たち消費者・利用者にとつて安心安全を揺るがすショッキングな事実もありました。また、毎年になつてしまつた異常気象による豪雨や季節はずれの台風など、10月には我が町でも突然の積雪での倒木による停電、交通網の寸断や営農ハウスの倒壊など様々な被害を受け、日頃からの備えや心構えの大切さを痛感いたしました。

そんな中で、6月には日本の象徴である富士山が世界文化遺産に登録され、広く世界に文化的価値が評価されました。そして9月には、2020年夏季オリンピックの東京開催が決定するなど明るい話題がありました。景気回復の後押しになるものと期待を寄せるところです。

私たちが議員といたしましても、地方分権、少子高齢化など時代を見据えた視点で、この厳しい状況を乗り越えるべく、町民皆さまと協働しながら、本町の発展と住民福祉の向上を目指して、議員活動を行つて参りますので、一層のご協力をお願い申し上げます。

新年がスタートしましたが、町民の皆様におかれましては、健康に十分留意され、本年も皆様にとつて最良の年でありませう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

